

たった。各受講生が抱える課題について、時にユーモアを交え聴講者にもわかりやすいレッスンが展開された。昨今のギター早期教育の充実ぶりが、この世代のレベルアップを促しているようだが、ギターの基礎技術に加えてソルフェージュ能力がさらに磨かれれば、近い将来それぞれが優れたギタリストに成長することだろう。受講した高校生たちの今後の活躍に期待したい。(上田英治)

◆第3回京都ギターセミナー

今回で3回目となる京都ギターセミナーは、8月6～7日に京都市内の関西セミナーハウスにて開催された。

毎年8月に催される京都ギターセミナーには、京都駅から地下鉄で一本という好アクセスと、1泊2日というタイトなスケジュールで行なわれることから、参加された方からは「夏の長期休暇が取れなくても参加できるのが嬉しい」との声が多い。

今年は、講師に藤井敬吾(常任講師)、福田進一(ゲスト講師)、岩崎慎一(ゲスト講師)の日本が世界に誇るギタリスト3名が講師陣として集い、2日間で12コマのレッスンというぎっしりと内容の濃いギター講習会となった。

ギターの個人レッスン以外にも、「ギター合奏の授業」と「ギターの基礎技術講座」、そして「講師によるコンサート」の時間が設けられている。また、ピアノ伴奏が必要なレッスン受講者には、常任ピアニストの藤井由美の伴奏でレッスンが受講できるところが嬉しい。

今回は、クラシックギターを始めて聞

もない方の参加もあり、聴講者からは「構え方や右手の発音の仕方など、ていねいな指導が改めてたいへん勉強になった」との声も多かった。また、藤井由美のピアノの個人レッスンを受講するため、遥々千葉県から来た方もおり、ギター以外のレッスンもとても新鮮だった。

今年の合奏の課題曲は、ギター四重奏曲〈序曲 2010〉で、作曲者である藤井敬吾自身による細やかで奥深い指導には、格別のものがあった。外が明るくなくてもまだもれる宴会場の明かりからは、年に1回の京都の夏の風物詩にどっぷりと浸っていたいという参加者の願いが感じられた。

2012年度の第4回京都ギターセミナーは、8月18～19日に行なわれる。

(京都ギターセミナー事務局 永田参男)

◆フラヴィオ・クッキ ギターリサイタル

11月2日、兵庫県伊丹市、いたみホール多目的ホールにてフラヴィオ・クッキギターリサイタルが行なわれた。曲目は以下の通りである。

ソロ第2番(カルツリ)、スペインのフォリアによる変奏曲(モレットイ)、フローレンス風プレリュード(シドニー)、アランプラの想い出(タレガ)、愛のロマンス(作者不詳)、セファルディーの歌と踊り(カセレス)、ホ短調組曲(ヴァイス)、パッサカリア(ヘンデル)、プレリュードとアレグロ(クライスラー)。

満員の観客の前で、62歳のマエストロはその驚嘆すべきテクニックと多彩な表現力を存分に披露した。本公演が日本

ツアーの最終公演であることもあり、奏者の疲労を心配する声もあったが、まったくの杞憂であった。若干のプログラム変更はあったものの、1曲目のカルツリから観客の熱い声援に応えたアンコール(3曲!)まで終始、むしろ若々しい生気に立ち満ちた熱演であった。

彼こそ真のヴィルトゥオーソというべきギタリストであろう。むろん超絶的な技術だけでなく高い音楽性、美しい音色、観客の胸を打つ表現力を兼ね備えた超一流の奏者という意味である。

超高速パッセージを軽々と弾きこなす完璧なテクニック。彼の手にかかると曲の難所などもともと存在しないように思えるほどだ。そして、大胆にして繊細な表現力。演奏機会の少ない作品も少なかったプログラムであったが、最後まで観客の耳と心を釘付けにした。終盤のバロック作品では独特の節回しも見られたが、これもイタリア人らしい自由さというべきなのかもしれない。そして、1曲弾き終えるごとに見せる少年のような笑顔もとても印象的であった。関西ギター界に大きな感動と刺激を与えてくれた素晴らしいコンサートであった。

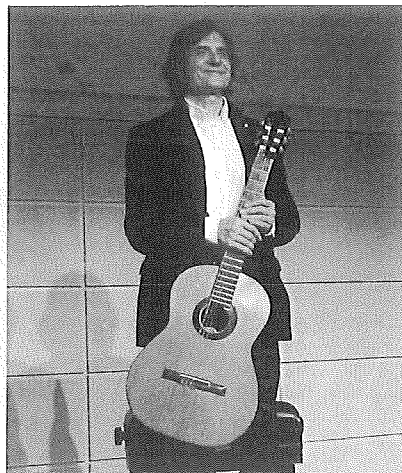
(北山直樹)

◆高槻ギタークラブ5周年記念コンサート

久しぶりに晴れの週末となった11月12日、高槻ギタークラブの5周年記念コンサートが開催された。高槻ギタークラブは、2007年4月に結成され、その年の12月に第1回目の発表会を開催した後、年1回のペースで発表会を続ける他、関西の合奏クラブとの合同演奏会に



第3回京都ギターセミナー参加者と講師陣



伊丹で最終公演を行なったフラヴィオ・クッキ